

北海校校友会 <事務局:北海高等学校内>

〒062-8601 札幌市豊平区旭町4丁目1-41 TEL 011-841-1161(代) FAX 011-824-5519
http://www.hokkaikouyu.com 編集責任者/広報部部长 松下 信一(高校28期)

北海校校友だより

令和6年度 2024.11.20

第65号

ism(イズム)意=主義・主張「持論を強く持っている」
北海生が心の内に秘めている誇り、「北海魂」「北海プライド」「スピリット」などの総称として、校友だよりのタイトルに採用させていただきました。



14回目の春
大阪桐蔭7-1北海

愛工大名電	報徳学園
神村学園	作新学院
大阪桐蔭	北海
京都市国際	青森山田



第96回
3月18日(月)~13日
主催/日本新
後援/朝日新



写真提供/北の球児たち

エール 硬式野球部OB 記者が見た!

偉業への挑戦!

2024年8月、高校野球の聖地・阪神甲子園球場が開業100周年を迎えました。第1回大会が行われた1924年8月13日の記念すべき開幕試合を行ったのは、北海中と静岡中。延長12回の激闘の末に5-4でサヨナラ勝ち。ここから甲子園の歴史が始まったのです。北海野球部は春季全道大会まで4季節連続で全道王者に君臨。北海道大会で頂点に立つことができれば、1963年に北海道勢初のセンバツ甲子園準優勝につながった62年秋を含む、5季連続の黄金時代に並ぶ大記録への挑戦でもありました。

前年秋は1年生右腕の松田収司投手を主戦に、初開催の札幌ドーム(大和ハウスプレミスドーム)で初代王者の名を刻みました。直後の明治神宮野球大会高校の部では、翌春のセンバツ甲子園から正式導入された新基準の低反発バットを全国に先駆けて公式戦で採用。雪解けまで全国の強豪校と公式戦で対戦できる絶好の機会でした。初戦の作新学院(栃木)戦で、延長10回タイブレークの末にサヨナラ負け。敗れはしましたが新基準バットの予想以上の飛距離減少を感じ、その試みに全国からも注目を浴びました。

大記録への序章、3年ぶり14度目のセンバツ甲子園は予想外の試練が待ち構えていました。対戦相手は甲子園春夏通算9度の全国制覇を誇る大阪桐蔭。ジャイアントキリングを狙いましたが、試合前のブルペンまで好調だった先発した松田投手の右肘に故障が発生。3回途中までに8四死球と無念の途中降板。試合も1-7で敗れ、13年ぶりの春1勝はお預け。投打に課題が浮き彫りになって北海道に帰ってきました。

そして迎えた夏。3年生最後の大会は、昨年夏から主力として活躍してきたセンターラインの3年生、梶村御影遊撃手、大石広那捕手、片岡誠亮中堅手を中心とした経験豊富なメンバーで挑みました。しかし、北海道大会初戦で札幌光星に敗戦。偉業への挑戦は断たれました。後日、金澤光流主将(3年)は「ずっとプレッシャーに押し潰されそうだった」と話していたそうです。北海野球部の3年間の経験をステップに、大学で花を咲かせて欲しいです。



写真提供/北の球児たち

振り返ると、センバツ甲子園での本塁打は、31試合でわずか2本。当初、新基準バットへの対策は、飛距離が落ちる分、フィジカルを鍛えるか、ディフェンスを磨くかの二択かと思われました。夏の甲子園でも本塁打は23本から7本へ激減。ひとつの答えは出たように思えました。

秋の大会前、平川敦監督(53)高校42期硬式野球部に「手に心えを聞くと、意外な答えが返ってきました。『絶滅危惧種かもしれないけど、打ち勝つ野球を目指したい』。その真意を尋ねるため、グラウンドへ足を運びました。『基本、打ち勝ちたい。駒沢の優勝(2004年)と一緒に守るのが当然、それは普通。それでどう打つか、どう守るか。力つけてバットを振って、ごまかしが効くのが前のバットで、今のバットはごまかしは効かない。木製バットとほぼ一緒だから、振る力も、振り方もそう。どういう風に打つか、バットを使うか、そういうことをちゃんとやって打てる選手を作ったら勝てる』。指揮官の頭の中には、全国制

覇のイメージが明確にできあがっています。理想を現実にするためのキーワードは「コンパクトにフルスイング」。小さく振るとかじゃなくて、結局プロの選手もコンパクトに振っている。インパクトのときの振り幅は非常に小さい。そういう風に振らないと、速いボールも鋭い変化球も打てない。でかく振ったって当たらない。『派手な柵越えを期待しているわけではなく、こじんまりとするスイングを求めているわけではない。痛烈な打球で外野手の間を抜いて、得点を奪っていくゲーム運びが一つの完成形と捉えているよ。』

今号が発行される頃には、秋季全道高校野球大会は幕を閉じているはず。来年は創立140周年。胸に燦然と輝く「HOKKAI」のユニフォームに袖を通した北海健児が、聖地で躍動する姿を見せてくれるはず。その時は記者席ではなく、アルプススタンドで校歌を高らかに歌い上げたい。来春、甲子園の新たな100年のスタートの門出に、北海が花をそえてくれるはずだ。

西川 薫(高校44期)

新基準 飛ばないバット

今春から導入された低反発金属バット

- 重さ900g以上
- 最大径が67mmから64mmに
- 従来より1mm厚くなった



HOKKAI ism
〈令和6年度〉2024年11月20日

第74回全国高等学校総合体育大会 北海道大会

柔道部 団体戦 Champion!

大会記録 を樹立!

V5

男子 5連覇!

女子 7連覇!

男子個人戦(7階級中) 優勝2名・準優勝3名

女子個人戦(7階級中) 優勝5名・準優勝1名



答えは自分の姿が教えてくれる

選択を迷った時、浅慮な私は「どちらが正しいのか、」と、正解を選びたいと言ふ臆病な心が隠し切れなくなる。
「失敗したくない、間違えたくない」多くの人が抱いたことのあるこの感情は、ただ真つすぐに己の努力を信じる心の持ち主のみ存在しないのではないだろうか。

親元を離れ、見知らぬ土地で生活を始めた15才の春に、不安でホームシックになった生徒がいます。思い通りにいかない日々の苦悩は寂しさで不安が増し、自分の選んだ道は正しかったのだろうか。自分問自答する日々。それでも彼女は自らの選択を信じ、良い時も悪い時も歩みを止めなかった。共に努力し共に涙し笑いあった第二の家族との3年間は、彼女の心を強くし、不安を自信に変えて見せてくれた。

卒業直前の2024年3月23日ドイツで開催されたチューリンゲン国際大会。21歳以下の全日本強化選手から選出された18才の横地萌恵の日本代表の舞台。オランダ・フランス・ウズベキスタン・ドイツの代表選手から全て1本勝ちで優勝を果たし笑顔を見せてくれた。一瞬を

逃さない立ち技、しつこい寝技を仕掛ける姿は大変気持ちよく、誇らしさを感じた。
翌日24日同じくドイツで開催されたブレーメンジュニア国際大会では、デンマーク・ドイツ・チェコの選手を圧倒し山口瑛太が優勝。胸に刻んだ北の星の精神は日本の印になっても変わりなく、一点を見つめる姿は透き通り勇ましく、更に力強さを増していました。

今年度のチームは、個々の強化はもちろんですが、チーム一丸となりプレッシャーに打ち勝つ姿を見せてくれました。
更には全日本ジュニアでは在校生9名、OB1名が、国民スポーツ大会では在校生5名、OG1名が北海道代表の切符を勝ち取りました。
ある日の選択は、意識を変え、行動を変えるきっかけになる。過去の選択は正しかったと未来の自分が証明してみせる様は、当の本人は気づいていないがそれは紛れもなく今を瞬間として全力で生きる姿が実現させるのである。

あなたの選んだ道はあなたの歩んだ道。どちらを選んでも正解にするのは自分次第。
大石 知美
(高校56期 柔道部OG)

北海 Judo 世界を制す!

日本代表選出

横地萌恵 52kg級 (高校76期)

2024年3月23日/チューリンゲン国際柔道大会
(開催地/ドイツ)オランダ・フランス・ウズベキスタン・ドイツ代表選手に

オール一本優勝!

日本代表選出

山口瑛太 100kg級 (高校76期)

2024.3月24日 ブルーメン国際大会
(開催地/ドイツ)
デンマーク・チェコ・ドイツ代表選手を

圧倒し優勝!

今期の生徒会執行部は、第76回北海祭を企画するにあたり、コロナ禍以前の北海祭の要素を「現代に合った形で」復活させることを中心に据えた。
北海祭の本格的な準備は1月から始まっている。まず前回の反省からやりたいこと・変えたいことを挙げ、その中からいくつか選び細かい内容を詰める。真つ先に候補に挙がったのが屋台・前後夜祭・一般公開であった。その後、大綱案を作成し、生徒総会で可決されることを祈る。可決されれば、各種プリントの作成、職員会議、事前打ち合わせ、当日準備などを経て、初めて北海祭は成立する。

今回復活させた屋台・一般公開・前後夜祭は5年ぶり、生徒も全員未経験で「例年どおり」が全く通用しない状況であった。屋台を復活させるため、保健所や消防から指導を受け、様々な業者に協力を依頼する必要もあった。昨年度までは比喩ものにならない忙しさ、何が正解が見えない不安の中で準備・運営を進めてきた。しかし、北海祭当日、屋台は長蛇の列がいくつもできるほどの大盛況で、活気に満ち溢れていた。校舎内も、有志発表で体育館が熱

気にも包まれるほどの大盛況、教室発表も盛り上がりを見せていた。前後夜祭は実現することができなかったが、屋台・前後夜祭・一般公開ともに好評であった。そこには、生徒たちの北海祭を心から楽しんでる姿や笑顔があった。

第76回北海祭を一言で表すなら「分岐点」であろう。それは、コロナ禍の北海祭とコロナ禍以前の北海祭が混ざって生まれた「新しい北海祭」であり、メンバーが2年生主体だった第79期生徒会執行部が一回りも一回りも頼もしく成長できたきっかけもなった。そして、「屋台は楽しそう」「昔の屋台の賑わいを取り戻したい」という純粋な願いを胸に最後まで北海祭をやりきれたのは、先生方や全校生徒の期待や協力があったからで、大変感謝しています。ありがとうございます。引き続き協力をよろしくお願いたします。

生徒会執行部

第76回北海祭

一般公開

卒業生が大勢来校!





会長挨拶

創立140周年を迎え その先10年を見据えて

北海校校友会第十一代会長

加我 洋 三二〈高校34期〉



迎えます。これからの約10年間に向けた新たなビジョンを描いていくことが重要です。

この度、令和6年6月より北海校校友会の会長を拝命致しました。加我洋三と申します。平素より校友会の活動にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

私たちが北海高校は、長い歴史と伝統を誇る学校であり、校友会は、その絆を深め、卒業生同士の交流を促進するための重要な役割を担っています。母校を支え合い、共に成長していくための大切な組織であり、私自身、在学中に得た経験や友情は、今なお私の人生の大きな支えとなっています。これからも、校友同士の絆を深め、母校の発展に寄与できるよう努めて参ります。

具体的には、校友会の活動を活性化し、在校生との交流を促進するイベントを企画していきたいと考えています。私たちの活動を通じて、母校への愛情を育み、次世代の学生たちにとってより良い環境を提供できるよう適切な体制構築が必要となります。

これからの私たちは、永年に渡り継続してきた教育奨学金の支援等に加え、あらゆる角度からサポートし、伝統である文武両道の質を更に向上させるための取り組みや、校友同士の絆を深める活動を推進していく所存です。

次世代の学生たちが多様な価値観を持ち、校友会としても卒業生のネットワークを活用し、在校生への支援を進めていきたいと考えています。

創設150周年を迎えるにあたり、私たちの母校がこれからも地域に根ざし、社会に貢献できる存在であり続けるために、皆様のご協力とご参加を心よりお願い申し上げます。

最後に、皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

最後に、皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

校長挨拶

2024年度 前期を振り返って

校長 秋山 秀 司

〈高校35期〉



入れ、生徒総数は1153名となっております。私たちが教職員は生徒それぞれの個性を尊重した人間教育の伝統をベースに、進学指導、課外活動、国際教育の更なる充実を図

校友の皆様には日頃からさまざまな形で北海高校を支えていただき、心より感謝申し上げます。

今日、教育の現場では生徒の主体的な学習力、そして多様性に基づいた学習権の保障とその充実が求められています。また、教員の働き方や少子化に伴う部活動の在り方など多くの課題が山積しています。来年度、創立140周年を迎える

北海高校は、これらの課題を解決していくためにも、教職員が一体となり改めて本校教育の原点を再確認し不易流行の理念を持って発展させていく気概であります。

一方、校友の皆様と母校との絆は、何にも代え難いものであり学校にとって大きな財産です。私学としての特徴を發揮し、未来に向けた教育活動を推進していく上で、これからも北海高校の教育活動へのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、北海高校は今年384名の入学生を迎え

さて、今年度前期の生徒の活動を振り返ると、全校生徒の結束力で、5年ぶりに制限の無いコロナ禍以前の北海祭が開催されました。昨年の北海祭で、既に制限のない開催も可能ではありましたが、北海道インターハイが行われることに生徒会が配慮し、自粛したお陰もあり運動部の活躍がありました。今年の北海祭には、多くの一般来場者があるなか3年生の屋台が復活し、ステージでは個性輝くパフォーマンスが披露され、改めて北海高校のスケールの大きさを感ずるものとなりました。

また、今年も数多くのクラブが全道・全国レベルで活躍をしてくれています。九州北部各県で開催されたインターハイに出場した柔道部、陸上競技部、男子バドミントン部、新体操部は、上位進出とはなりませんでしたが、持てる力を十分に出し切ってくれました。

2024年度入試を振り返って

進路指導部長 渡邊 雅利

昨年度入試における大学合格実績としては、国公立42名(現役のみ)となりました。実感としては、特進コースはまだまだ上昇が狙えるはずである。現に浪人で京都大学や神戸大学にも進学できていることから、高い目標をもち継続して努力することで、学力をある程度伸ばしていくことは可能だ。高校生活において、非認知能力をどれだけ高めていくかにかかっている。進学コースも同様で、関西・関東圏の難関私立の一般受験合格者を増やしたことから、コースの如何に関わらず、同方向で進学・学習指導することが進学実績に大きな影響を及ぼすことは明白だ。

しかも国公立大進学は20名と、他校比較すれば相対的に少ないものの、志願者数内での合格割合が非常に高いものになっていることは例年通りである。ただ、昨年度とは違い、近年の流行である国公立大の総合型学校推薦型選抜受験者が減っているため、合格者数を増やすことができていない。札幌以外への国公立大進学は一定数いるものの、能力が高いにも関わらず挑戦する生徒が少ないことにも、エンターギャップなどの影響があるのではないかと推測される。

令和5年度〈2024年度〉
現役生徒大学入試合格状況

北海道大学 4名 小樽商科大学 4名
北海道教育大学 10名
はこだて未来大学 2名・千歳科学技術大学 2名・
北見工大 2名・室蘭工大 4名・弘前大学 4名・
滋賀大学 1名・大阪大学 1名・札幌市立大 3名・
名寄市立大 1名・旭川市立大 1名・
高崎経済大 1名・新見公立大 1名・
北九州市立大 1名

国公立大学 合計 42名

早稲田大 2名・東京理科大 1名・青山学院大 1名・
立教大 2名・中央大 9名・法政大 4名・同志社大 1名・
関西学院大 2名・南山大 1名・日大 2名・東洋大 8名・
駒大 1名・専修大 1名・芝浦工大 3名・
成蹊大 3名・成城大 3名・
北海学園大学 137名他

私立大学 合計 391名



校友の動向

北海の精神

高校64期卒業

及川 久莉子



北海高校入学のきっかけは、父が北海高校の出身で学校の名前を知っていた事と習っていたフィギュアスケートのクラブの先輩が北海のフィギュアスケート部として活動しており憧れがあった為だと思います。

私の学生時代は、寝ている時以外はフィギュアスケート漬け!! 小・中学校では学校の友人と遊んだりもせず、若者らしい事をあまり経験する機会がない程にトレーニングに人生を賭けていました。

北海道、スポーツに青春を費やしており、授業に部活、日々活気があった事です。個人スポーツをやってきた私にとっては、ある意味でクラスメイトがチームメイトのような、そんな気持ちがありました。

北海高校に入学して何より嬉しかったのは、周りのみんなも文武道、スポーツに青春を費やしており、授業に部活、日々活気があった事です。個人スポーツをやってきた私にとっては、ある意味でクラスメイトがチームメイトのような、そんな気持ちがありました。

司法過疎地域に一人だけの弁護士

高校63期卒業

松野 貴紀



ひまわり基金法律事務所とは、弁護士が少ない又は居ない地域でも法的サービスを受けられるように、日本弁護士連合会等の支援を受けて開設・運営される法律事務所です。

本別町での生活も一年半ほどが経過し、近頃は、畑に植えるのか食用なのか見分けられるようになる等、農業大國十勝での暮らしに馴染んできたのではないかと思います。

北海高校を卒業した松野貴紀と申します。在学中の思い出といえば、カナダへの語学留学でしょうか。

私は、令和元年の司法試験に合格し、札幌で弁護士となり、令和5年の3月末頃、本別ひまわり基金法律事務所

第二の人生

高校65期卒業

西村 拓真



現在、僕は飲食店で勤務し独立を目指して日々奮闘しています。

飲食の道を志したのは、北海道で出会った先輩が声をかけて下さったことがきっかけでした。

プロ野球選手にはなれなく、20年やってきた野球を引退しました。一度きりの人生! 一番やってみて良かったことは飲食店でしたので、経験はありませんでしたが、思い切って飲食の道へ進むことを決めました。

学生時代は野球に集中していた校の選手たちが次々とテレビでアップに映し出されました。うれし泣きしながら肩を組んでいる選手、抱き合って喜ぶスタンディング、私はその人たちのなんとも清々しい顔がたまらなくなり、「こんな人たちと一緒に高校生を過ごしたい。」と思いました。

小さな星

高校61期卒業

新谷 果林



2005年、サッカー選手権北海道予選の決勝、優勝が決まった瞬間、優勝

仕事の面では、司法過疎地域に一人だけの弁護士として、依頼者のため、日々努力しています。

プライベートの面では、私の趣味が登山と釣りということもあり、冬も夏も山に登り(今年の夏はカムエクト1839

たので、バイト経験もなく不安だらけでした。実は、僕自身は人見知りですが、笑顔での接客を心がけ、お客様との会話を大事にし、居心地の良いお店と感じてもらえるよう日々頑張っています。

飲食店での勤務は早3年が経ち、現在は1店舗を任せてもらえるようになりました。様々なお客様がご来店くださる中で特に嬉しいことは、北海道高校で過ごした仲間や、先輩後輩がたくさん利用してくれることです。様々な環境で活躍している仲間やお世話になった先輩方と、懐かしい話をしたり、互いの近況を語り合うことで、より高いモチベーションを得ることが出来ていると実感しています。

まだまだ努力中ではありますが、今の環境により一層感謝し飲食店を通じて恩返しをしていきたいです。

すすきので「ひつじ苑」というジンギスカンのお店に勤務しています。是非ご利用ください!

その学校の旗は、緑地に黄色星、そう北海高校でした。夢を膨らませて入った学校生活は、それはそれはみんな部活に命を懸けている集団でとてもカッコいい人たちがばかりでした。生ぬるい世界に生きていた私にとっては、刺激的

私は今、札幌市で小学校の教員をしています。何もできない自分がかつて頑張っていた仲間を追いかけたかと思ったり。小さな気持ちのバトンは今度は、小さな子どもたちに自分が渡す番だ。と思う、日々教員生活を楽しんでいます。

叙勲受章者

令和5年秋の叙勲

黄綬褒章 受賞

創業146年 栗山町
小林酒造株式会社4代目
道内産の米を100%使った
酒づくりに取り組む。

高校33期
小林 米三郎

おめでとうございます



財務省勲章・褒章伝達式



新任挨拶

吉竹 柊二



このたび、北海高等学校に事務職員として新卒で着任いたしました、吉竹柊二と申します。まずは、長い歴史と伝統を誇る本校に迎えていただいたことを大変光栄に思いますとともに、皆さまが築き上げてこられたこの学校の一員となれることに、責任の重さと同時に大きな誇りを感じております。

私は、学生時代から教育現場に強い関心を持ち、学校運営を支える立場から教育の発展に貢献したいという思いで、この道を選びました。その原点には、自身が学生時代に経験した学校生活の思い出があります。学業、進路、部活動で多くの方に支えていただきました。

新任で右も左もわからないことが多く、至らぬ点もあるかと思いますが、日々の業務を通じて学び、少しでも早く皆さまの信頼にお応えできる職員となるよう努力してまいります。特に、事務職員の役割は多岐にわたるため、生徒や教職員の皆さまと積極的にコミュニケーションを図り、学校全体がスムーズに運営されるよう、柔軟かつ迅速に対応していくことを心がけていきたいと考えております。

今後とも、皆さまのお力添えを賜りながら、全力で学校運営に取り組んでまいりますので、ご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



北海校校友会2024(令和6年度)活動経過方針

【令和6年】	9月21日	旭川支部総会・懇親会
4月6日	10月19日	オホーツク支部総会・懇親会
4月26日	10月26日	北海学園大学結成 70周年記念式典(パークホテル)
5月14日	11月9日	東京支部総会・懇親会
5月21日	11月16日	道南支部総会・懇親会 北海学園4校同窓校友会 連絡会議
6月6日	12月予定	第65号校友だより発刊
6月8日	12月予定	第4回常任委員会
6月14日	【令和7年】	
6月22日	2月28日	校友会入会式
6月22日	3月1日	北海高等学校 第77回卒業証書授与式
7月10日	3月予定	第5回常任委員会
7月22日	3月予定	令和5年度第2回幹事会
9月4日		
9月12日		

2026年開催予定 校友の集いご挨拶

高校46期の湊源道と申します。この度、46期を代表して校友会の通信紙面をお借りし、皆様へご報告とご協力をお願い申し上げます。

新型コロナウイルスの影響で、2020年以降見送られていた我がが北海校校友会校友の集いが、2026年に再び開催される運びとなりました。この集いは、全国から集まるOB・OGが、学生時代の恩師や先輩後輩と顔を合わせ、旧交を温める貴重な機会として長年愛されてきました。私自身も若い頃から参加し、校友会で出会った先輩・後輩との絆が、現在の自分や商売にかけがえのない影響を与えてくれたと感じております。

この大切な伝統を受け継ぐため、46期の有志で話し合い、2026年の開催に向けて手を挙げさせていたいただきました。時代に合わせた新しい校友会の姿を目指し、従来の方法に加えて、より参加しやすく、より満足度の高い、持続可能な校友の集いを実現したいと考えております。

特に若い世代の後輩の皆様にも多くご参加いただければと思っております。また、当番の学年が中心となって準備を進める慣例にとらわれず、幅広い世代の後輩方にも実行委員としてご協力いただき、準備段階から世代を超えた親交を深めていきたいと考えておりますので、ご興味のある方はぜひお声がけください。

2026年、新たに生まれ変わる校友の集いに、皆様のご参加を心よりお待ちしております。



校友の集い 実行委員会
実行委員長 湊 源道
(高校46期)



▼11組	須磨 耀平	◎印代表幹事
▼10組	納こはる	佐藤彰哉
◎9組	穴澤 駿	佐藤いろは
▼8組	吉田 拓道	天満咲希
▼7組	武笠 健次郎	谷山ゆい
▼6組	鈴木 千平	◎成田 弥穂
◎5組	大橋 俊斗	前田 理央
▼4組	花田 幹太	高橋 一華
▼3組	草島 花音	児島 みゆ
▼2組	遠藤 穂野香	◎寺沢 悠翔
▼1組	阿部 笑子	吉木 煌翔

【令和6年度】 高校第76期 校友会クラス幹事

北海校校友会 令和5年度 決算書

期間/令和5年4月1日~令和6年3月31日

令和5年度 特別会計決算報告書

第96回全国選抜高等学校野球大会 北海高校野球部を甲子園へ送る会決算書

令和5年度 教育振興資金項目別 収支報告書

期間/令和5年4月1日~令和6年3月31日

令和6年度 石狩支部 高等学校并論大会 団体優勝

課題の部 優秀賞 掛作菜々美
自由の部 優秀賞 安藤 汐穂

第68回 全道高等学校并論大会 課題の部 最優秀賞 掛作菜々美

第22回 全道高等学校 文芸研究大会文芸コンクール 短歌の部 優秀賞 木田 有風

令和6年度 高文連石狩支部写真展 準特選 山角 凛

北海校校友会 令和6年度 予算書

期間/令和6年4月1日~令和7年3月31日



運動部の活動状況

新体操部

令和6年度全国高等学校総合体育大会新体操大会兼全国高等学校新体操選手権大会出場/令和6年8月5日(月)～8月7日(水)北九州市立総合体育館

団体出場

(3年)飯塚芽衣・3年 狩野美涼・3年 宮地萌々乃・2年 高橋滯・1年 原田萌衣・1年 小川美羽)

私たちは昨年、北海道札幌市で開催されたインター



「LOVE」をテーマに妖艶さと明るさの2面性を技術力と合わせて表現できるように努力してきました。新体操は、減点スポーツなので、30秒を演じ切るかが勝負を決めるので、同じ動きを何度も反復練習し、技術力やチーム力を上げることに意識してきました。結果は32位と昨年の15位を大幅に下げることになりましたが練習での積み重ねや経験など、今まで学んできたことを次に伝えていきます。これからもご支援宜しくお願い致します。

陸上競技部

陸上競技部は創部100年を経て、新たな世紀(次なる100年)へ向けての一步を踏みだしています。今年度の夏の北九州インターハイで全国連続出場10回目という区切りを迎え、今後ますますの発展のため日々努力していきます。

現在は、3学年合わせて約70名の部員を抱え、日々の練習から精神的にも肉体的にも

も技術的にも自己と対峙し鍛錬の日々を送っています。競技場での練習とウエイトトレーニングをトータルにバランスよく組み込み、併せて仲間を尊重する心の育成にも取り組んでいます。選手たちは、歴史と伝統を受け継ぎ、脈々と続く「伝統の気魄」を感じつつ、スタートからゴールまで、絶対にあきらめない姿勢を貫こうと頑張っています。諸先輩方からの声援を力に変え、応援して支えて

第77回 全国高等学校陸上競技対抗選手権大会 大会結果

陸上競技(7月28日～8月1日)博多の森公園陸上競技場

【個人】

- 男子400mH 三宅快晴(3年) 予選:54秒05
- 男子400mH 鈴木統也(3年) 予選:54秒19
- 男子400mH 溝延 亘(2年) 予選:53秒63
- 女子800m 伊藤里音(3年) 予選:2分15秒80
- 女子800m 梶山 優(1年) 予選:2分20秒55

【リレー】

- 男子4x100mR 溝延亘(2)・吉田晴斗(2)・本柳仁煌(2)・松井脩弥(3) 予選:41秒24
- 男子4x400mR 溝延亘(2)・正力尚樹(3)・鈴木統也(3)・三宅快晴(3) 予選:3分15秒92
- 女子4x100mR 小田稔里(2)・波多野心春(2)・小林ゆづき(3)・笠原美璃(3) 予選:47秒77
- 女子4x400mR 小林ゆづき(3)・山村莉々果(3)・梶山優(1)・小川乃々葉(2) 予選:3分52秒82

アイスホッケー部

アイスホッケー部は昨年度、創部100周年を迎えました。本校は高校アイスホッケーにおいて全国で最も古い歴史を持つ学校です。多くの卒業生が各方面で活躍されており、昨年11月11日までさかのぼりますが、OB会の協力により記念の式典は月寒体育館にて現役選手と本校OBによる記念試合として開催しました。OBチームには地元元の社会人チームに所属する選手だけでなく、道外からも参加いただき、アジアリーグで活躍した元プロ選手や現役のプロ選手5人もこの試合のために駆け

つけて頂きました。高校生にとってはとても貴重な経験となりました。昨年度の2024年1月のインターハイでは八戸工大一高校と接戦の末一回戦で敗戦してしまいましたが、その力を存分に発揮できた大会となりました。今年度の全国選抜では優勝候補の清水高校と0対9で惨敗しましたが、その悔しさを胸に次のインターハイに向けて日々厳しい練習に励んでいます。



アイスホッケー部100周年記念試合

硬式野球部

今年度は1年生27人を加え総勢68人の部員となりました。春季大会では、2年連続14度目の優勝を成し遂げ、昨年の春、夏、秋と合わせて4季連続で優勝を達成することができました。夏の北海道大会では、札幌光星高校に敗退し、目標としていた2年連続北海道大会優勝は達成することができませんでした。選手達は最後まで諦めず戦ってくれました。多くの皆様からご支援、ご声援を賜り本当にありがとうございました。

女子バドミントン部

くれる人々の存在を意識しながら、最高のパフォーマンスを発揮すべくチーム一丸となつて頑張ります。陸上競技部OB・OG会より寄贈していただいた横断幕『蹴立てを進め北海軍、諸先輩方の熱い応援を力に変えて、新たな記録と伝統を繋いでいけるよう、さらなる高みを求めて挑戦し続けます。これからも応援よろしくお願致します。』



スト4に入ることを目標に大会に臨みましたが、あと一歩及ばず第5位で3年生は引退を迎えました。個人戦ダブルスでは赤平・岡本ペアが全道大会に出場し、全道ベスト4まであと1点というところまで迫りましたが、惜敗し、ベスト8となりました。このペアは特進コースに所属しながらの活動でしたが、時間の使い方や練習の質の向上に工夫を重ね、文武両道を体現してくれました。

現在は、先輩の思いを引き継いだ後輩たちが、「あと1点」を取りきるために、選手一人ひとりが何をすべきなのか、個々が主体的に考えて挑戦する日々が続いています。日常的に多くの卒業生が訪れてくださったり、練習相手をして弱点補強してくださったりすることが多いこと、サポートしてもらっていることが選手にとっての大きな励みとなっております。今後とも指導ご声援をよろしくお願いたします。

男子バドミントン部

我々は3年生10名、2年生7名、1年生6名の計23名で活動しています。明るく、元気に、厳しく、日々の練習に取り組み、部活動を通じて心技体を鍛えています。今年度は高体連で全道ベ

2024年6月に行われた全国高等学校バドミントン選手権大会(インターハイ)予選では、3年生の津川祐太がシングルスで全道優勝となり、3年連続で全国インターハイへの切符を手にすることができた。団体では3位、ダブルスでも3位と全国決めの試合で負けていたチームの重苦しさを晴らしてく

サッカー部

今年度は3年生28名、2年生36名、1年生31人を加え総勢95人で『全国ベスト16』を目標にシーズンを送っています。インターハイは札幌支部予選を勝ち抜き全道大会に進出しましたが、3回戦で優勝した旭川実業高校に0-2で敗れ、全道ベスト8で大会を終えました。プリンスリーグ北海道においては、7勝6敗の5位(暫定)でこれから最終節を迎えます。プリンスリーグ終了後は、いよいよ残すところあと選手権大会のみとなります。4年連続の全国高校サッカー選手権大会出場に向けて一戦必勝で臨みます。(10月1日現在)



今年度も多くの皆様からご支援、ご声援を賜り本当にありがとうございました。

2024・5埼玉、2024・11恵庭)し3種目でプリンスピックの出場権を得られるよう努力している。

部員数は、3年生7名、2年生4名、1年生8名の計19名である。チームスローガンである、周囲から「応援されるチーム」・「憧れるチーム」づくりを常に意識し、バドミントンだけでなく日常生活から人間性を磨くことを意識した活動を行っている。



③HOKKAI_BADMINTON

北海高校バドミントン部 Instagramで活動報告をしていますので、ご覧頂けると有難いです。



HOKKAI ism

〈令和6年度〉2024年11月20日

女子バレーボール部

女子バレーボール部は、3年生6名、2年生5人、1年生5人の16名で活動しています。昨年インターハイ予選で創部以来初の全道大会に出場して、チーム目標を「全道大会出場」から「全道ベスト8」に設定し、日々練習に励みました。今年は、2年生の新チームで臨んだ選手権札幌支部予選では最終日に残りながらも全道大会出場を逃してしまいました。自分達の精神力の弱さ、個々それぞれ組織としてのレシーブ力の低さを認識し、守備範囲を

広げるための練習や筋力強化などのトレーニングにも力を入れています。1月に行われる新人大会で必ず全道大会出場を勝ち取るために選手権予選で負けたときの悔しさを忘れず1日1日の練習に全力で取り組んでいます。今年のチームスローガンは「騎挑戦」です。チームスロートツであるバレーボールでも、一人一人が何事にも挑戦し立ち向かっていくことでそれがまとまったときに本当に強いチームになると考えています。

女子バスケットボール部

女子バスケットボール部は全道大会ベスト8を目指して活動しています。今年のチームは例年以上に小さいチームですが、スキルアップや研究を重ね、ここの試合で勝負を決められるようチーム一丸となって練習に励んでいます。次の新人戦では必ずシードを取り戻し、全道大会に出場できるよう頑張ります。応援よろしくお願いたします。



男子バスケットボール部



男子バスケットボール部は全国出場・全道ベスト4常連を目標に日々活動を行っています。全国的に留学生が入れている学校が年々増えていき、道内でも留学生を要する学校があります。そんな中でも目標を達成するために「強い」バスケットを目指して、日々強度の高い練習でお互いの切磋琢磨しながら取り組んでいます。

柔道部

第74回全国高等学校総合体育大会北海道大会が6月中旬にウインドヒルくしろスパーアリーナで開催され、



男子団体戦5連覇、女子団体戦7連覇、個人戦男女合わせて14階級中、7階級で優勝することができました。第74回大会の歴史の中でも、男女でのアベック5連覇はこの学校もなしえない記録を作ることができました。

昨年のインターハイ全国大会では地元開催ということもあり、多くの先輩方が活躍し、日本一や準優勝、3位が二人という偉業を達成してくれました。その先輩方が卒業し、次は私たちがやる番だという気持ちと、本当にやるのか、どこまでやれるのかという不安な気持ちで、日々を過ごしていました。活躍したい、連覇をつなげたい、多くのプレ

ッシャーの中でも、たくさんの方々に声をかけていただき、また仲間の応援や頑張りに励まされ、元氣と勇氣をもらいました。大会に向かっていく中で、私たちは周りの方々の支えによって成長させてもらっていると改めて実感した時間を過ごせました。感謝と謙虚な気持ちを持ち、「心はひとつ北海道」のスローガンのもと、これからまた全員で前に進んでいきます。

文化部の活動状況



3年坪谷百首の作品が創部以来初めて、全国大会である総文祭に選ばれました。(8月1〜2日に岐阜県開催) 選出されるためには、まず高文連石狩支部大会で約800点中、上位4位までの得票数に入り、さらに全道大会で各支部から選ばれた作品達と審査において上位

に残らないと全国推薦作品に選出されません。(全道から平面作品は10点選出)大会期間中は、全国から集まった他校の生徒と研修や交流などを行い充実した日程になりました。今年の石狩支部大会はつどむ開催になり、結果は全道入選4人、佳作に7人選ばれました。今年度の全道大会は旭川市で行われます。今年度の発表の機会は道展U21と、どんぐり会展になります。お時間がありましたら部員の成果を会場では是非ご覧ください。

女子テニス部

選手権支部の団体は、準々決勝で開成中等に勝ち、ベスト4に入りました。当初の目標である「ベスト4」を達成できました。個人はダブルスの6位が最高でした。

「全道3位以内」という目標を達成できるよう、チームが一丸となり取り組んでおります。これからの応援を宜しくお願いします。

今年度は、5月に開催されたインターハイの支部予選で、団体戦で第6シードから準優勝で全道大会への進出を決めました。全道大会の団体戦では第2シードとなり、上位進出を目指しましたが、準々決勝で旭川永嶺高校と対戦し、1対2で敗戦しました。怪我をした選手を抱えた厳しい状況での戦いとなり、ベスト8となりました。個人戦では3年の鈴木惲太がシングルスでベスト16、1年彦野巧磨が2回戦敗退、ダブルスでは鈴木惲太・彦野巧磨ペアが出場しベスト16、庄司康佑・大谷旬ペアが1回戦敗退に終わりました。3年生が引退し、新チームとなり、戦力は他校と比べても上位にあるので、7年ぶりの選抜大会出場へ向け、真面目にコツコツと練習に励んでいきたいと思えます。

男子テニス部

部員15名でほぼ毎日活動しています。団体戦での全道ベスト4以上を目標とし、顧問・生徒一丸となって厳しい練習に取り組んでいます。

今年度は、5月に開催されたインターハイの支部予選で、団体戦で第6シードから準優勝で全道大会への進出を決めました。全道大会の団体戦では第2シードとなり、上位進出を目指しましたが、準々決勝で旭川永嶺高校と対戦し、1対2で敗戦しました。怪我をした選手を抱えた厳しい状況での戦いとなり、ベスト8となりました。個人戦では3年の鈴木惲太がシングルスでベスト16、1年彦野巧磨が2回戦敗退、ダブルスでは鈴木惲太・彦野巧磨ペアが出場しベスト16、庄司康佑・大谷旬ペアが1回戦敗退に終わりました。3年生が引退し、新チームとなり、戦力は他校と比べても上位にあるので、7年ぶりの選抜大会出場へ向け、真面目にコツコツと練習に励んでいきたいと思えます。

か月間の受け入れと歓迎会を行いました。コロナ禍の影響で、部員達にとっては英語で行う初のイベントとなりました。交換留学生のベンジャミン君が本校滞在中は部活に参加してもらい、部員達と様々な活動を通して交流を深めました。部員達は日本文化や北海道の生活について、パワーポイント等のビジュアルエイドを使用しながら英語によるプレゼンテーションを行いました。1年生は勿論ですが、2、3年生にとっても、初めてだったので、英語の原

文芸部

令和6年度、文芸部は1年生2名、2年生6名、3年生4名、計12名の部員で活動しました。第20回石狩支部文芸大会では、小説・評論随筆・詩・短歌・俳句・部誌の各部門に出品することができました。

1年小竹、2年似鳥が優良賞。短歌部門で2年木田が優秀賞、3年木村が優良賞。俳句部門で1年高橋が優良賞を獲得しました。奨励賞と部誌部門を含めると、部員全員が全道大会への出場権を得ることができました。全道大会においても上位入賞を狙いたいと思えます。

稿づくり等、当初は難しく感じることもありましたが、それぞれのグループ内で工夫を凝らし発表を行いました。また、日本の伝統的な行事や遊びを紹介したり、最終日には、ニュージランドの学校生活や日常生活について長時間のインタビューを行い、その結果をポスタープレゼンテーション形式にまとめ、学祭で発表を行いました。

国際交流部



今年度は、ニュージランドからの中期交換派遣生(2か月間)の受け入れと歓迎会を行いました。コロナ禍の影響で、部員達にとっては英語で行う初のイベントとなりました。交換留学生のベンジャミン君が本校滞在中は部活に参加してもらい、部員達と様々な活動を通して交流を深めました。部員達は日本文化や北海道の生活について、パワーポイント等のビジュアルエイドを使用しながら英語によるプレゼンテーションを行いました。1年生は勿論ですが、2、3年生にとっても、初めてだったので、英語の原

稿づくり等、当初は難しく感じることもありましたが、それぞれのグループ内で工夫を凝らし発表を行いました。また、日本の伝統的な行事や遊びを紹介したり、最終日には、ニュージランドの学校生活や日常生活について長時間のインタビューを行い、その結果をポスタープレゼンテーション形式にまとめ、学祭で発表を行いました。

令和6年度 北海道高等学校文化連盟第20回石狩支部文芸研究会





新聞局

新聞局は、3年生4名秋で引退、2年生8名、1年生17名、計29名で活動中である。今年度は多くの1年生が入局したため、局内で班を作成して、それぞれに2、3年生を指導係として配置し、技術の伝達に努めた。

「北海高校新聞」(写植新

聞)を年間五、六回発行することを目標としており、現在は秋号を作成中である。また十月十二、十四日に実施されたFM北海道のイベント「IMAREAL」学生芸術祭「インル・トク」に参加するための特別号にも取り組んだ。

新聞コンクールでは、残念ながら受賞はならなかったが、活発な交流のうちに終えることができた。今年度から始まる第一回全国高校新聞コンテストでは、めでたく金賞を受賞することができた。今後は速報や校外への取材などにも積極的に取り組み、よりよい学校新聞作りを努めていきたい。

合唱部

春、「第70回高文連石狩支部演奏会」に出場し、札幌

では初演となる合唱曲「いいことありますように」(難波真実作詞、松下耕作曲)を演奏しました。歌詞には英語や難解なラテン

ンサート)では、日頃お世話になっていらっしゃる方たちへ、懐メロ口数を演奏しました。小さくも、あたたかな演奏会となりました。



第70回 北海道高等学校文化連盟 石狩支部演奏会(カナモトホールにて) 2024年6月21日

語もあり、私たちにとって一つの挑戦となりましたが、時代や国境を越えて「今」届けたい!と、願いを込めて臨みました。夏、「北海祭リトルコ

そして、秋、今年も、歌の仲間と特別養護老人ホームで「3校合同演奏会」を行います。担当の職員の方は、合唱にも造詣の深い本校のOBです。入居者さんと職員さんと私たち高校生とが一体となって音楽を楽しむこの音楽会を私たちは、番楽しみにして、現在練習中です。

インターアクトボランティア部

6月20日、21日に1泊2日の日程で、北海道青少年会館Compassに於いて国際インター第2510地区インターアクト年次大会が開催されました。私たちは今年度、当番校として企画・準備・運営に携わりました。「U・D・ユニバーサルデザインで未来を描こう」を大会テーマとして内容を検討し、最初に大学の先生による出前授業でUDについて学び、UDスポーツであるポッチャの体験、そしてUD絵本づくりという3つのプログラムを企画しました。準備段階ではネームプレートに氏名札を詰めたり、絵本づくりの材料となるフェルトやマジックテープをカットしたりサンプルを試作するなどしましたが、

他校の生徒さんに気持ちよく使ってもらえるように皆で声を掛け合って丁寧に作業しました。当日の運営では、明るい挨拶を心がけて行動できました。ポッチャや絵本づくりでは参加者とコミュニケーションをとって仲良くなることができました。今回の大会での学びや体験を通して、「国籍・年齢・性別・障がいの有無などに関わらず、すべての人にとって幸せに暮



らせる社会」について考えることができ、思い出の大会となりました。

書道部



「第8回9.21世界平和の祈り」2024年9月16日 護国神社にて

さて、日々の活動ですが、高文連主催の書道展や全国・道内規模の各種書道展への出品するため、作品制作が主になっており、1年の集大成として校外展の横星展を開催させていただきました。また、展覧会の作品制作の他に、9月16日には札幌護国神社において、和フロッジエクトTAISHI主催の「第8回9・21世界平和の祈り」という平和祈りに参加して平和奉納揮毫を行ってきました。こちらも貴重な機会と思っておりますので、こちらも継続して参加したいと思っております。

書道部は昭和10年に書道研究会という形で発会したのが起源とすると、本年が創部90年ということになります。現在は1年生3名、2年生6名、3年生4名の計13名の部員です。活動にあたって、「自問自答の時間を大切に作品制作にあたる。」「作品研究や鑑賞を通して、自らの感性を磨く。」ことを念頭に、日々切磋琢磨しております。

21世界平和の祈り」という平和祈りに参加して平和奉納揮毫を行ってきました。こちらも貴重な機会と思っておりますので、こちらも継続して参加したいと思っております。展覧会は成績が良ければそれに勝るものはないと思いますが、その過程の中で自分自身も成長できるように、これからも心がけて活動していきたいと思えます。

弁論部

今年度の弁論部は2年生1名、3年生2名の計3名。昨年度、3年生木村菜音が全道大会自由の部で優秀賞を受賞するも、規定のために岐阜で行われた全国総文祭に参加できず、大会出場を引退。今年はずか2名の大会参加となった。石狩支部大会で、2年掛作菜々美が課題の部優秀賞受賞。3年で部長の安藤汐穂が自由の部優秀賞受賞。10月2日(水)より鷹栖町



メロデーホールにて全道大会開催。2年掛作が最優秀賞受賞で、来年度香川県で開催される、全国高等学校総合文化祭弁論部門への出場を決めた。2年振りの参加で、上位入賞を狙う。

演劇部



演劇部は、主に7月の学祭での公演と、10月の高文連大会参加時の公演に向けて練習しています。昨年度からは春公演として3月にも校内で公演する機会をつくり、年3回発表の場を得ることになりました。

長の佐々木が創作した台本を演じ、参加30校を超える中で2校のみが受賞する脚本奨励賞を獲得しました。今年度も生徒創作台本での大会参加となり、作劇した生徒だけでなく、部員全員で楽しい舞台をつくれるよう意欲的に活動しています。普段の活動では滑舌や発声に関する基礎的な練習が主となりますが、演技上で大切になる表現力や、表情を読み呼吸を合わせるための取り組みも行っています。

写真部

写真部は、3年生3名、2年生7名、1年生は新しく3名の部員が入部し、計13名で活動しています。日頃から撮れる写真の幅を広げ、部員1人1人が写真と真剣に向き合い、努力と工夫を重ねています。今年度は、昨年度以上に部員一人一人が自ら積極的に写真を撮るようになり、さまざまな作品を制作することができました。令和6年度高文連石狩支部写真展で

は、2年生の山角凛の「準備完了」が準特選を受賞、入選に6名・9作品、佳作に10名・13作品が選ばれ、入選以上の6名・10作品が全道大会へ出品となりました。3年生が引退して新体制となりますが、3年生の意志を引き継ぎ、全道大会においても上位入賞、全国大会出場を目指して頑張っていくと思えます。



吹奏楽局



今年度、吹奏楽局は59名で活動しました。札幌市内では大所帯です。本校の吹奏楽局は他校に比べ圧倒的に初心者が多いです。顧問としては指導に時間がかかり技術的な困難がありますが、多く集まることはありがたいです。さて、今年度の活動ですが、入学式、高文連、定期演奏会、北海祭、吹奏楽コンクールの活動をしました。入学式などでの演奏は昨年度から通常通り演奏をしました。

高文連、吹奏楽コンクールは「マードック」からの最後の手紙」という曲を演奏しました。高文連は賞を伴わない発表会形式でしたが、堂々と演奏しました。コンクールは55人まで出場できるA編成で出場し、銀賞を受賞しました。無謀な挑戦でしたが初心者も全員参加させてのコンクールでした。結果は銀賞でしたが、良い演奏ができたと思います。また、来年に繋がるステージでした。定期演奏会は6月30日(金)にコンサートホール(Kitarra)で行いました。吹奏楽局の活動で最も重要な活動になります。高文連やコンクールとは違いステージ構成や選曲なども考え活動し、大盛況のうちに終えました。



HOKKAI ism
〈令和6年度〉2024年11月20日

支部・同期会活動報告

江別支部 総会・懇親会 開催について

第33回北海校校友会江別支部総会、懇親会を令和6年6月9日(日)開催致しました。世界中に蔓延した新型コロナウイルス感染症も収束し、3年振りの開催となりましたが、過去の3年は永く、従前より支部活動にご尽力を頂いてきたご高齢の諸先輩方が、体力等の衰え等、ごきなみ欠席された事は、とても残念です。今回、高23期から高54期迄の20名の出席を頂きました。

開会に先立ち、江別支部物故会員に黙祷を捧げた後、来賓として北海高等学校校長 秋山秀司様、北海校校友会会長 金井重雄様、同副会長 佐藤 隆様のご臨席を賜り、代表して秋山校長

より、母校の現状等についてのお話を頂きました。引き続き議事に入り令和5年度の事業報告、収支決算報告、令和6年事業計画(案)、収支予算(案) 支部規約改定 役員改選等の議案審議も全会一致で承認可決され、総会は無事終了致しました。

【新役員】
支部長／草野正義(高26期)、副支部長／野村和宏(高31期)、木村修(高38期)、幹事長／長峰祐昭(高35期)、副幹事長／澤田佳菜子(高54期)、幹事／梶野雅裕(高26期)、村井裕介(高40期)、西川薫(高44期)、監査／菊池慶治(高26期)、藤部英一(高27期)、顧問／郷和(高20期)

懇親会に移り、来賓挨拶を北海校校友会会長 金井重雄様より、校友会活動状況等についてのお話を頂き

ました。新支部長草野の乾杯の音頭で懇親会が始まり、会が進むにつれ各自の近況報告、現役時代の部活の話等に花が咲き、さらにビンゴゲームでも大いに盛り上げました。校歌斉唱では、応援団OB野村和宏君(高31期)のエールで、母校北海高と江別支部の発展を願ったエールで締め、校友会副会長 佐藤隆様の音頭で、万歳三唱を行い散会となりました。

皆さん時間の経つのも忘れて盛り上げた懇親会でした。

最後にになりますが、現在、江別市には約470名以上の卒業生が住んでおられ、支部としても多くの卒業生の皆さんと繋がり、若い方が一人でも気軽に参加が出来る環境作りに努めております。江別在住、又、お勤め先が江別の方、この『校友だより』を読まれて興味がある方は、『北海校校友

会江別支部』のグループLINEも開設しておりますので、是非、検索してみてください。現役の活動他、江別のOB・OGの美味しいお店他、色々な情報を出来る限り発信しております。参加も大歓迎です。宜しくお問い合わせします。

支部長 草野正義(高校26期)



江別市在住の卒業生の皆さん是非、登録してください!



令和6年6月22日(土) 定山溪万世閣ホテルミリオナー

**HOKKAI
高校35期会
還暦祝賀会**
50歳を迎えた年に当番期として「校友の集い」を開催いたしました。当時の幹事長、野村英市の呼びかけにより「HOKKAI 高校35期会」を設立。会の一つの目標として、「10年後の還暦まで同期仲良く、仲間が欠けることなく、皆そろって祝賀会を開催しよう。」と約束をしました。
開催当日は「同期秋山校長・事務局金村事務長」にご出席いただき花を添えていただきました。また、先輩、後輩の皆様から、あたたかい祝電・差し入れなど頂戴し、高校35期会一同お礼申し上げます。
お陰様で、想定以上の盛り上がり、朝まで笑いばなしの1泊2日となりました。
HOKKAIと共に
高校35期会還暦祝賀会幹事 清川澄人



記念品/校章入ビールタンブラー

「土井晩翠先生が作詞した校歌を いっしょに歌いましょうの会」に参加して

北海高応援団OB・OG会 副会長
藤井雅樹(高校36期)



2024年10月20日 杜の都仙台市にて「土井晩翠先生が作詞した校歌をいっしょに歌いましょうの会」が開催されました。そうです、我々北海高校の校歌の作詞者であります。この会もコロナの影響で中止を余儀なくされ、実に6年ぶりとなる開催でした。

開催当日、応援団OB・OG会の本州メンバー、仲間達と現地集合。北海カラーである「浅緑」に北海の文字。背中にはスターのマークを背負った参加者達。

無事、プログラムが終了して最後は全員で記念撮影。地元雑誌の取材(後日掲載あり)、盛会のうちに幕を閉じました。

私は、終了後、土井晩翠先生の生家「晩翠草堂」と足を運び土井晩翠先生と我らの繋がりを晩翠先生の歴史資料を拝見しました。晩翠草堂の館長さんは以前、伺った時の

ことを鮮明に覚えていただき、懐かしさをお話させていただきました。この2年に一度のイベントは卒業生どなたでも参加可能です。興味を持っていただき是非、我々「日本三大大校歌」である北海高校校歌を歌いに参りましょう。

北海高応援団OB・OG会は、このイベントが長く続きますよう、仙台市立立町小学校実行委員会の皆様と、今まで以上に良好な関係を築いて参ります。





旭川支部

去る九月二十一日校友会旭川支部の懇親会を開催致しました。今回は十四名と昨年より少ない人数ではありましたが、加我洋三新校友会会長、柳澤帯広支部長をお迎えしての会合となりました。

会長交代の質疑応答もありましたが、校友会のために尽力を尽くしたいとの力強

いお言葉がありました。

渡辺副支部長の乾杯の挨拶で懇親会が始まり盛り上がった所で恒例の北海ダビーが行われました。最後に外崎会長より勇退して後輩に後を託したいとお話がありました。新体制として

新支部長／大物久夫 高校二十二期 副支部長／渡辺泰久 高校九期

十勝支部総会



十勝支部の会員の参加は、開催以来はじめてご参加いただいた高25期川村先輩をはじめ柳澤支部長、そして若くは高63期中川君、高68期小林君にも出席いただき9名(高36期大須賀先輩、高64期坂東君)の参加となりましたが、例年ご出席されていた大先輩の方々は少なかつたのですが、熱いメッセージは多数頂戴しております。

今年度の十勝支部総会は6月22日に帯広市内のかくれんぼ伊酒屋じろうにて開催されました。酒店店主でもある高53期熊田君のご紹介のお店で、和気あいあいと支部総会および懇親会を終えることができました。今年も校友会本部からは加我新会長はじめ旭川支部外崎支部長、そして十勝支部の皆さんご存知の旭川支部大物幹事長、同支部佐藤ご夫妻、またオホーツク支部加藤先輩に本年もお越し頂きました。ありがとうございました。

今年度の本会では、多くの若い北海健児OBが参加され幅広い世代の交流や北海校での思い出話に多々寄り添うことができました。その若い世代の参加によって今後の十勝支部は安泰である...と感じられた総会となりました。ぜひ、十勝在住そして全国の校友会の皆様もお気軽にご参加ください。今後とも十勝支部をよろしくお願いたします。

星野啓二(高校39期)

副支部長／

餌取秀信 高校二十六期 幹事長／竹田吉備 高校三十九期 以上、新体制でスタートする事に成りました。微力ながら校友会の為に頑張りたいと思います。外崎支部長十数年に渡り有難う御座いました。旭川支部 大物久夫(高校22期)

オホーツク支部

令和6年10月19日、5年降りに「魚政」で総会・懇親会を開催。秋山校長と加我会長は所のためご欠席でしたが、高校27期加藤昭幹事の同期で友人の柳澤久良十勝支部長を始め11名の参加でした。総会は、上野昭一支部長の挨拶から始まり昨年度の事業報告で北海高校の部活が



各種大会でオホーツク管内に遠征された時の遠征補助金支出、硬式野球部・サッカー部の全国大会出場への寄付など報告。懸案であった役員改選については、来年の総会までに現役員と若い会員を含め新役員改選の会議を開き提案することや若い会員の参加を検討することが承認された。懇親会は稲村秀一副支部長の乾杯に始まり十勝支部の状況や初出席の高校45期古澤大尚さんの自己紹介があり、「魚政」他を経営している高校32期坂口政義幹事から美味しい日本酒も出され皆酔いながら時間の許す限り会員同士大いに懇談しました。最後は坂口幹事から来年の再開を祈念して本締めで終了したあと記念写真を撮り最後に高校時代に返る校歌斉唱をして1次会から2次会に歩き出しました。幹事 楠 文彦(高校25期)

東京支部支部長 就任に関する決意表明

このたび、北海校校友会東京支部支部長を拝命した高校43期、阿部正樹と申します。(硬式野球部出身) 東京支部は、今から116年前に在京の卒業生が当時の浅羽靖校長を囲む会からスタートし、その後、癌研究において功績のあった黒川利雄大先輩が東京支部を東京本部へ拡大、その際には直木賞作家の和田芳恵先輩、そして新撰組を世に知らしめた子母澤寛(梅谷松太郎)先輩など蒼々たるメンバーがこの東京支部に関わってこられました。

加えて、前任の柳支部長においては、支部の立て直しから規模を拡大し、現在の隆盛を誇っている事実は誰も疑う余地はございません。よって東京支部は、それ相応の伝統と格式を備えており、今回拝命した職責の大きさに大変身震いをする想いがあります。

現在、本校校友会が掲げる「学校ファースト」、「若者ファースト」においては東京支部も踏襲してゆきます。それには、どのようなアプローチが必要であるかを私なりに真剣に考え、支部の皆様と協議していきながら一緒に邁進したいと考えております。

その実現に向けて、黒川大先輩が座右銘に置いていた「山上に山あり山また山」を私も念頭に刻みます。この言葉には、様々な意味が含まれています。直訳では、事を成すには多く山を越えていかねばならないという訓示ですが、私はそれに加えて、歴代の先輩方が築いてきた山を、後進である私達が更に高く

積み上げていく為には、非常に険しい山々が待ち構えていると捉えています。ご存知の通り、我が校の建学以来の基本精神は、「質実剛健」と「百折不撓」です。

将に、これらの精神のもと、私は北海校校友会東京支部支部長という大業に挑む覚悟が出来ました。北海校OB/OGは、首都圏において多く逸材が活躍をしている事は周知の事実です。その拠り所として、革新性のある東京支部を創り上げていくことが、私に課

せられた責務であることを強く認識しています。若輩者ではございますが、今後のお見知り置きと、ご指導ご鞭撻のほど、何卒宜しくお願い申し上げます。 2024年11月10日 北海校校友会東京支部 支部長 阿部正樹 (高校43期)





HOKKAI ism
〈令和6年度〉2024年11月20日

2025年 第115回 どんぐり会展 (美術部)

第12回 樺星展(書道部) 合同展

1915年(大正14年)から続く、
伝統ある作品展です。
後輩たちの集大成を、是非ご覧ください!!

●開催日 / 2025年3月12日(水)～16日(日)
●会場 / 大丸藤井セントラルスカイホール7F
札幌市中央区南1条西3丁目

※日程変更となる場合がございます。予め、ご了承をお願いいたします。

入場無料

HOKKAI OGの皆様へ 女性委員会(仮称)発足について

北海高が共学に移行して、早いもので26年の年月が経ちました。今や、共学世代の卒業生は一人を超え、その半数がOGとなります。

現在の校友会活動は男子校時代の役員が中心となり運営されています。来年度、母校は創立140周年を迎え、さらには11年後、150周年を迎えます。大きな節目を迎えるにあたり校友会の伝統と、現代のやり方を組み入れ活動する時期が来たと考えています。

卒業生が学校と連携を図り、共に発展していくため、女性委員会(仮称)を発足します。皆様のお力をお貸しください。1から立上げる委員会です。興味のある方、ご協力いただける方は、下記QRから連絡をいただけますよう、お願い申し上げます。

組織強化部 三原智恵(高校55期)
総務部 大石知実(高校56期)

ネーミング募集
〇〇委員会もしくは、〇〇部会
と言ったネーミングを募集いたします。
左記、QRからアイデアを送って下さい。

卒業期早見表

北海生は卒業期がだいじ!
卒業生の皆さん、
自分の卒業期をご存じですか?

周年	西暦	卒業年	卒業期
1	1887	明治20年3月卒業	
2	1888	明治21年3月卒業	
3	1889	明治22年3月卒業	
4	1890	明治23年3月卒業	
5	1891	明治24年3月卒業	
6	1892	明治25年3月卒業	
7	1893	明治26年3月卒業	
8	1894	明治27年3月卒業	
9	1895	明治28年3月卒業	
10	1896	明治29年3月卒業	
11	1897	明治30年3月卒業	
12	1898	明治31年3月卒業	
13	1899	明治32年3月卒業	
14	1900	明治33年3月卒業	
15	1901	明治34年3月卒業	
16	1902	明治35年3月卒業	
17	1903	明治36年3月卒業	
18	1904	明治37年3月卒業	
19	1905	明治38年3月卒業	
20	1906	明治39年3月卒業	中学1期
21	1907	明治40年3月卒業	中学2期
22	1908	明治41年3月卒業	中学3期
23	1909	明治42年3月卒業	中学4期
24	1910	明治43年3月卒業	中学5期
25	1911	明治44年3月卒業	中学6期
26	1912	明治45年3月卒業	中学7期
27	1913	大正2年3月卒業	中学8期
28	1914	大正3年3月卒業	中学9期
29	1915	大正4年3月卒業	中学10期
30	1916	大正5年3月卒業	中学11期
31	1917	大正6年3月卒業	中学12期

周年	西暦	卒業年	卒業期
32	1918	大正7年3月卒業	中学13期
33	1919	大正8年3月卒業	中学14期
34	1920	大正9年3月卒業	中学15期
35	1921	大正10年3月卒業	中学16期
36	1922	大正11年3月卒業	中学17期
37	1923	大正12年3月卒業	中学18期
38	1924	大正13年3月卒業	中学19期
39	1925	大正14年3月卒業	中学20期
40	1926	大正15年3月卒業	中学21期
41	1927	昭和2年3月卒業	中学22期
42	1928	昭和3年3月卒業	中学23期
43	1929	昭和4年3月卒業	中学24期
44	1930	昭和5年3月卒業	中学25期
45	1931	昭和6年3月卒業	中学26期
46	1932	昭和7年3月卒業	中学27期
47	1933	昭和8年3月卒業	中学28期
48	1934	昭和9年3月卒業	中学29期
49	1935	昭和10年3月卒業	中学30期
50	1936	昭和11年3月卒業	中学31期
51	1937	昭和12年3月卒業	中学32期
52	1938	昭和13年3月卒業	中学33期
53	1939	昭和14年3月卒業	中学34期
54	1940	昭和15年3月卒業	中学35期
55	1941	昭和16年3月卒業	中学36期
56	1942	昭和17年3月卒業	中学37期
57	1943	昭和18年3月卒業	中学38期
58	1944	昭和19年3月卒業	中学39期
59	1945	昭和20年3月卒業	中学40期
		昭和20年3月卒業	中学41期
61	1946	昭和21年3月卒業	中学42期
62	1947	昭和22年3月卒業	中学43期
63	1948	昭和23年3月卒業	中学44期
		昭和23年3月卒業	中学45期
64	1949	昭和24年3月卒業	高校1期
65	1950	昭和25年3月卒業	高校2期
66	1951	昭和26年3月卒業	高校3期
67	1952	昭和27年3月卒業	高校4期

周年	西暦	卒業年	卒業期
68	1953	昭和28年3月卒業	高校5期
69	1954	昭和29年3月卒業	高校6期
70	1955	昭和30年3月卒業	高校7期
71	1956	昭和31年3月卒業	高校8期
72	1957	昭和32年3月卒業	高校9期
73	1958	昭和33年3月卒業	高校10期
74	1959	昭和34年3月卒業	高校11期
75	1960	昭和35年3月卒業	高校12期
76	1961	昭和36年3月卒業	高校13期
77	1962	昭和37年3月卒業	高校14期
78	1963	昭和38年3月卒業	高校15期
79	1964	昭和39年3月卒業	高校16期
80	1965	昭和40年3月卒業	高校17期
81	1966	昭和41年3月卒業	高校18期
82	1967	昭和42年3月卒業	高校19期
83	1968	昭和43年3月卒業	高校20期
84	1969	昭和44年3月卒業	高校21期
85	1970	昭和45年3月卒業	高校22期
86	1971	昭和46年3月卒業	高校23期
87	1972	昭和47年3月卒業	高校24期
88	1973	昭和48年3月卒業	高校25期
89	1974	昭和49年3月卒業	高校26期
90	1975	昭和50年3月卒業	高校27期
91	1976	昭和51年3月卒業	高校28期
92	1977	昭和52年3月卒業	高校29期
93	1978	昭和53年3月卒業	高校30期
94	1979	昭和54年3月卒業	高校31期
95	1980	昭和55年3月卒業	高校32期
96	1981	昭和56年3月卒業	高校33期
97	1982	昭和57年3月卒業	高校34期
98	1983	昭和58年3月卒業	高校35期
99	1984	昭和59年3月卒業	高校36期
100	1985	昭和60年3月卒業	高校37期
101	1986	昭和61年3月卒業	高校38期
102	1987	昭和62年3月卒業	高校39期
103	1988	昭和63年3月卒業	高校40期
104	1989	平成1年3月卒業	高校41期

周年	西暦	卒業年	卒業期
105	1990	平成2年3月卒業	高校42期
106	1991	平成3年3月卒業	高校43期
107	1992	平成4年3月卒業	高校44期
108	1993	平成5年3月卒業	高校45期
109	1994	平成6年3月卒業	高校46期
110	1995	平成7年3月卒業	高校47期
111	1996	平成8年3月卒業	高校48期
112	1997	平成9年3月卒業	高校49期
113	1998	平成10年3月卒業	高校50期
114	1999	平成11年3月卒業	高校51期
115	2000	平成12年3月卒業	高校52期
116	2001	平成13年3月卒業	高校53期
117	2002	平成14年3月卒業	高校54期
118	2003	平成15年3月卒業	高校55期
119	2004	平成16年3月卒業	高校56期
120	2005	平成17年3月卒業	高校57期
121	2006	平成18年3月卒業	高校58期
122	2007	平成19年3月卒業	高校59期
123	2008	平成20年3月卒業	高校60期
124	2009	平成21年3月卒業	高校61期
125	2010	平成22年3月卒業	高校62期
126	2011	平成23年3月卒業	高校63期
127	2012	平成24年3月卒業	高校64期
128	2013	平成25年3月卒業	高校65期
129	2014	平成26年3月卒業	高校66期
130	2015	平成27年3月卒業	高校67期
131	2016	平成28年3月卒業	高校68期
132	2017	平成29年3月卒業	高校69期
133	2018	平成30年3月卒業	高校70期
134	2019	平成31年3月卒業	高校71期
135	2020	令和2年3月卒業	高校72期
136	2021	令和3年3月卒業	高校73期
137	2022	令和4年3月卒業	高校74期
138	2023	令和5年3月卒業	高校75期
139	2024	令和6年3月卒業	高校76期
140	2025	令和7年3月卒業	高校77期

卒業生の皆様 校友会からのお願い

日頃より、校友会活動にご理解・ご協力をいただきまして、お礼申し上げます。

校友会の歴史は長く、大正4年8月に第2代戸津校長が初代校友会会長となることで設立されました。今年度で109年の時を刻んでまいりました。これも歴代の校友会役員の強い母校愛と、様々なご尽力をいただいた賜と思ひ馳せております。現役員は、その思いを途切れさずことなく「校友の集い開催・校友会奨学金制度の維持・校友だ

よりの発刊」を活動の柱として、これからも活動してまいります。しかし時代も変わり、様々な課題も浮き彫りとなってまいりました。とりわけ、校友だよりの発刊については、郵便料金改定があり、大きな影響を受けることとなりました。

校友会では、これからも後輩たちの頑張りや卒業生の親睦を紹介したいと考えております。卒業生の皆様には、今までと変わらぬご支援・ご協力をお願いいたします。

北海校校友会同窓会事務局次長 清川澄人

北海学園大学「学報」を
下記QRコードより
ご覧いただけます